



●豊田賞受賞/日本鋳造工学会

省エネ型縦溝付ルツボ (ゼブラックス)

浸漬ヒーターチューブ
(サーモチューブ)



口付キルツボ

ゼブラックスは、燃焼時の燃費節減と溶解時間の短縮等を同時に実現します。

「省エネ型縦溝付ルツボ(ゼブラックス)」の最大の特徴は、表面に縦の溝を付けたことにより、従来を上回る省エネルギーを実現させたことです。

当社は「口付キルツボ」と「浸漬ヒーターチューブ(サーモチューブ)」をゼブラックスの新たなラインアップに加え、お客様からこれまで以上の好評をいただいております。



会社概要 (2016年9月30日現在)

社名 日本ルツボ株式会社 (登記上社名: 日本坩堝株式会社)
 Name: Nippon Crucible Co., Ltd.
 設立 明治39年(1906年)12月
 本店所在地 東京都渋谷区恵比寿1-21-3 恵比寿NRビル
 TEL(代表): 03-3443-5551 FAX: 03-3443-5191
 資本金 7億452万円
 証券取引所 東京証券取引所 市場第二部
 会計監査人 有限責任監査法人トーマツ
 証券コード 5355
 従業員数 連結 200名 単体 158名

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
株式に関する お手続きについて (住所変更・買取請求等)	1. 証券会社等の口座をご利用の場合 お取引の証券会社等にお問い合わせください。 2. 証券会社等の口座をご利用でない場合 (特別口座) みずほ信託銀行(TEL:0120-288-324)までお問い合わせください。
公告方法	電子公告(http://www.rutsubo.com/) (ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。)

経営理念

わが社は、創造性豊かな活力に満ちた役職員により、伝統を守りつつ、いかなる時代、いかなる環境にも適合する会社を目指します。

Heart&Spirit

当社は、明治18年の創業以来、お客様ニーズを的確に把握し新製品の開発、新ジャンルの開拓を推進し進めてまいりました。21世紀も、その姿勢は変わりません。

Ecology

当社は、どんなに優れた技術であっても地球環境にダメージをあたえてはならないと考えます。環境に対して求められるもの、必要なものを展望しながら製品・設備を提供してまいります。

Challenge

「現状維持は退化につながる」という発想のもと、常に新しい技術を開発し続け、新しい分野への進出によりお客様の満足を実現してまいります。



日本ルツボ株式会社
NIPPON CRUCIBLE CO., LTD.

URL:<http://www.rutsubo.com/>



Heart & Spirit Ecology Challenge

NIKKAN

Report

第177期 中間報告書

2016年4月1日～2016年9月30日

日本ルツボ株式会社
NIPPON CRUCIBLE CO., LTD.

証券コード 5355

当社は、耐火物事業を核として、競争力・収益力・成長力のある企業体質の確立を目指してまいります。



当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢が改善し個人消費に底堅さがみられるなど、緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、設備投資の持ち直しの動きには足踏みがみられ、円高による輸出への影響が懸念されるなど、景気の先行きは不透明な状況にあります。

当社グループを取り巻く関連業界におきましては、主要取引先である自動車関連産業は、国内生産台数はほぼ前年並みと持ち直しつつありますが、軽自動車販売台数が前年比で足元大幅にマイナスとなるなど、依然として盛り上がり欠ける状況にあります。

鉄鋼産業は、世界粗鋼生産量が第1四半期から前年比増加に転じており、国内粗鋼生産量も前年比増加基調にありますが、中国の粗鋼生産および鋼材輸出が依然として高水準にあり、厳しい状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループは営業と技術が一体となり、主力製品や新製品の拡販活動を積極的に推進してまいりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は37億9千6百万円と前年同四半期比5.2%減少となりましたが、安価原料への置換など製造原価の低減を一段と進めたこと等により、利益面では、営業利益1億4千8百万円(前年同四半期比+37.0%)、経常利益1億4千5百万円(前年同四半期比+28.1%)、親会社株主に帰属する四半期純利益1億6百万円(前年同四半期比+41.9%)とそれぞれ増加させることができました。

当社は、グループ一丸となって、耐火物事業を核として競争力・収益力・成長力のある企業体質の確立を目指してまいります。今後とも、株主の皆様よりの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

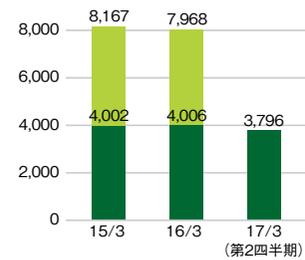
代表取締役社長

大久保正志

売上高

3,796百万円

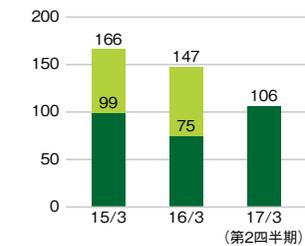
■ 通期 ■ 第2四半期累計 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

106百万円

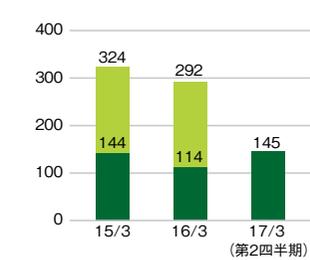
■ 通期 ■ 第2四半期累計 (単位:百万円)



経常利益

145百万円

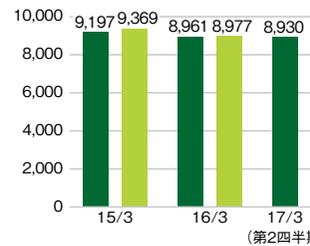
■ 通期 ■ 第2四半期累計 (単位:百万円)



総資産(資産合計)

8,930百万円

■ 通期 ■ 第2四半期累計 (単位:百万円)



四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間 (2016.9.30)	前連結会計年度 (2016.3.31)
資産の部		
流動資産	5,483,414	5,694,521
固定資産	3,446,108	3,282,699
(有形固定資産)	(2,096,342)	(1,885,452)
(無形固定資産)	(82,702)	(96,931)
(投資その他の資産)	(1,267,064)	(1,300,316)
資産合計	8,929,522	8,977,220
負債の部		
流動負債	3,358,646	3,363,137
固定負債	1,901,880	1,949,776
負債合計	5,260,526	5,312,913
純資産の部		
株主資本	3,612,183	3,559,793
その他の包括利益累計額	56,813	104,514
純資産合計	3,668,996	3,664,307
負債純資産合計	8,929,522	8,977,220

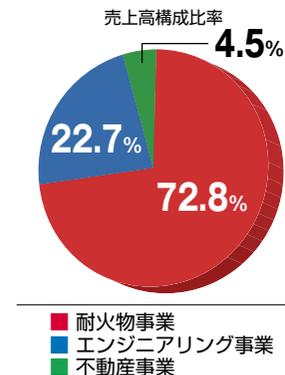
四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 (2016.4.1-2016.9.30)	前第2四半期連結累計期間 (2015.4.1-2015.9.30)
売上高	3,796,199	4,005,874
売上総利益	1,021,532	999,471
営業利益	148,310	108,220
経常利益	145,496	113,602
税金等調整前四半期純利益	138,913	109,107
四半期純利益	106,465	74,528
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△ 500
親会社株主に帰属する四半期純利益	106,465	75,028

セグメント別概況(連結)

売上高 3,796百万円



耐火物事業



売上高 2,768百万円

鑄造市場向けは、国内自動車生産台数がほぼ前年並みとなるなか、売上高を維持した一方、鉄鋼市場向けは、高炉の炉修工事が減少いたしました。その結果、耐火物事業全体の売上高は前年同四半期比2.7%減少いたしました。

エンジニアリング事業



売上高 862百万円

エンジニアリング事業は、金属の溶解炉を担当する「築炉事業部」と、焼却炉・溶融炉を担当する「環境事業部」の2部門が推進しております。新設炉の受注のずれ込み等を主因に、売上高は前年同四半期比14.3%減少しております。

不動産事業



売上高 169百万円

本社ビルの賃貸事業は、立地条件の良さから100%の入居率を維持しており、太陽光発電事業は、当初予想を上回る発電量を確保しております。その結果、不動産事業全体として、前年同四半期と同様に安定した売上高を維持しております。

(注) 1. 売上高構成比率は外部顧客に対する売上高から算出しております。
2. 上記の売上高の数値につきましては、セグメント間の内部売上高または振替高を含む売上高で表示しております。